

# 平成24年度「福井新々元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成25年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成24年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成25年3月

観光営業部長 伊藤 恵造

## I 総括

### 1 「にっぽんのふるさと」福井の発信の徹底

- ・ ふるさと知事ネットワークのつながりを活かし、各県美術館の所蔵品を相互に活用する交流展を本県で初めて実現しました。
- ・ 若狭地域の歴史文化の発信として、関係寺院等に働きかけ、通常公開されていない秘仏等を特別公開する「みほとけの里 若狭の秘仏」を実施し、県内外から延べ9000人が訪れ、本県の新たな魅力づくりや誘客に効果をあげました。
- ・ 映画「恐竜を掘ろう」や映画「旅の贈りもの 明日へ」といった福井を舞台とした映画公開とタイアップするとともに、映画関係者とのつながりを活かし、効果的な本県の魅力発信を行いました。
- ・ 大宮、高崎、長野など新幹線沿線駅で、大型広告の掲出や出向宣伝、現地メディアや旅行会社への訪問営業を行い、新幹線金沢開業に向けた本県の認知度向上や誘客拡大を強めました。

### 2 新高速交通ネットワーク活用・対策の着実な実行

- ・ 恐竜キッズランド構想の実現として、26年夏開館に向けた野外博物館整備の設計を完了し、準備を着実に進めました。また、3月からの大型恐竜化石カマラサウルスの本格公開や、展示解説員が同行説明を行う「見どころダイノツアー」の開始など、恐竜博物館の魅力を高めました。
- ・ 一乗谷朝倉氏遺跡のフィールドミュージアム化として、遺跡内の周遊バス運行や音声ガイドの試行的導入、遺跡全体を見渡せる物見台の整備、「戦国あさくら市」を開催したほか、資料館に新たに展示解説員を配置し、未公開所蔵資料の展示「逸品展」を開催するなど、来訪者へのサービス向上を図りました。
- ・ 市町の観光地の魅力アップとして、「観光まちなみ魅力アップ事業」を創設し、あわら温泉では、まち歩きを楽しむことができるような街路や湯のまち広場の整備、敦賀市金ヶ崎では、赤レンガ倉庫を活用した「鉄道と港」のまちづくり、三方五湖周辺では花と光をテーマにした縄文ロマンパークの整備などの計画策定を支援しました。
- ・ 北陸新幹線金沢開業後の誘客拡大を図るため、27年秋に、JR各社と北陸三県共同で北陸Destiネーションキャンペーンを実施することが決定しました。

### 3 ふくいの「食」のブランド化と販路拡大の推進

- ・ 食のブランド化として、大手企業と連携した情報発信、大手百貨店や一流ホテルにおける福井フェアの開催などにより、大都市圏の消費者に、本県の食の魅力や良さを直接伝えました。
- ・ 食の販路拡大として、首都圏や関西圏などの高級レストランや料亭など109の事業者を訪問営業し、新たに18事業者が県産食材を使用させていただくことを実現しました。
- ・ 嶺南地域への誘客拡大として、魅力ある若狭の食を気軽に食べることができるよう、新鮮な海の幸、里・山の幸を活かした昼食メニューづくりを地元市町や観光協会とともに進めました。

#### 4 安心して帰住できる仕組みづくり

- ・ 新ふくい人の招致は、東京、大阪、名古屋に設置しているふるさと帰住センターや県内NPOと連携し、定住情報の発信や相談対応などを行い、今年度の新ふくい人招致数は321名となりました。
- ・ ふるさと納税は、市町一体となったPRや、県人会や同窓会などを通じ、81団体延べ10,800人に直接、制度周知と協力依頼を行うとともに、県内の商工会議所や商工会に機関広報誌への掲載、研修等での資料配付等を依頼し、県内企業や県外在住の従業員に対してPRを行いました。

#### 5 文化施設のレベルアップの着実な推進

- ・ 美術館については、「ストラスブール美術館展」および「魔法の美術館」などの企画展が好調であり、年間入館者数は23万人と、昭和52年の開館以来最高を記録しました。
- ・ 歴史博物館については、企画展「泰澄大師ゆかりの神仏」を開催し、泰澄ゆかりの仏像や越前の宗教文化を紹介するなど、本県の歴史文化を深く掘り下げて発信したほか、併せて、博物館学芸員が解説する泰澄ゆかりの地を巡る見学ツアーを実施し、新たな魅力を創出しました。
- ・ 若狭歴史民俗資料館については、施設展示の一新など、歴史文化のまち若狭を学び、楽しむことができる拠点施設となるような機能強化を検討し、26年度の舞鶴若狭自動車道の全線開通に併せた全面的なリニューアルの準備を進めました。

## II 「政策合意」項目にかかる結果について

- ・ 別紙「平成24年度 政策合意項目にかかる実施結果報告（観光営業部）」のとおり

**平成24年度 政策合意項目にかかる実施結果報告(観光営業部)**  
(平成25年3月末現在)

**【実施結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項 目		実 施 結 果	
<p><b>1 観光とブランドを産業の柱に</b> ◇ <b>ブランド拡大の営業戦略</b> ・「ブランド営業」政策</p> <p>客観的な良さを持っていながら、あまり全国に知られていない県産品を権威ある第三者等に評価していただき、全国発信する「もっと日本一プロジェクト」を着実に展開します。</p> <p>福井を舞台と設定する、国民的テレビ番組や映画、書籍、CMロケ地などの誘致・企画実現に努め、パブリシティ(無償)と併せた効果的な情報発信の機会を増加させます。</p> <p>特に、映画制作支援を通じて、本県を訪れる映画出演者や監督などの関係者との絆を深め、新たな福井ファンを増やし、映画とともに「つながりのふるさと」福井を全国に発信します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>本県特産品として知名度が高い上庄里芋、越前うに、若狭ぐじについて、メディアに働きかけ、人気の高いテレビのグルメ番組などを通じて、これら食材の良さを全国に発信したほか、日本料理の第一人者の監修により、生産者のこだわり、素材の良さ、素材を活かした料理方法などを紹介するDVDを作成したことから、今後の本県食材の魅力発信に活用します。</p> <p>特に、上庄里芋については、権威ある専門機関に科学的分析を依頼し、他産地と比べ、強い甘みを持ちながら適度な旨味を有しているとの客観的評価を得たことから、この分析結果も活用し、その良さを全国に発信します。</p> <p>また、越前水仙については、花の香りの専門家や研究機関とともに香りなどを活かした新たな発信方法を検討しました。</p> <p>福井を舞台と設定する映画として、10月から福井市や坂井市、あわら市が舞台となる「旅の贈りもの 明日へ」が全国公開されたほか、2月から全てのシーンが県内で撮影された本県出身・大和田伸也さん監督「恐竜を掘ろう」が公開され、こうした映画とタイアップした本県の魅力発信を行いました。美浜町が重要な舞台となるさだまさしさん原作「サクラサク」映画化については、製作委員会を支援し、26年春の公開に向けた準備を進めました。</p> <p>また、映画「恐竜を掘ろう」の出演者や監督などに、映画と併せた恐竜博物館PRなどを行っていただいたほか、本県ブランド大使とも交流を深めていただき、本県の魅力を強力かつ効果的に発信し、新たな本県ファンの開拓に努めました。</p>	
<p>「新しい日本一ブランド」の創造 3件</p> <p>福井を舞台と設定する 国民的テレビ番組、映画、書籍、CM等 制作決定2件 企画実現3件</p> <p>県全体でのパブリシティ広告費換算効果 18億円 (平成23年度 約16億円)</p>		<p>「新しい日本一ブランド」の創造 継続4品</p> <p>福井を舞台と設定する 国民的テレビ番組、映画、書籍、CM等 制作決定3件 企画実現3件</p> <p>県全体でのパブリシティ広告費換算効果 18.0億円</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>・ダントツ日本一「恐竜王国」を目指して</p> <p>化石発掘現場で恐竜の実物足跡化石を展示する「野外博物館」が平成26年夏までに開館できるよう着実に建設準備を進めます。地元市や民間企業と「レプリカ工房」や「恐竜ショップ」など誘客の受け皿づくりの整備も具体化させ、「恐竜溪谷100万人構想」の実現を進めます。</p> <p>恐竜博物館においては、平成25年春からのカマラサウルス展示に先行した組立経過の紹介や、特別展を拡充した「恐竜・地質科学フェスタ（仮称）」の開催、展示の面白さを深く感動的に伝える「見どころダイノツアー（仮称）」の実施など、博物館のさらなる魅力アップを図ります。</p> <p>また、新たな恐竜ブランド商品の開発や、キャラクター無償貸与による魅力的な商品化の促進、恐竜骨格の貸出し・監修先の拡大など、官民の知恵、技術、資金を組み合わせ、恐竜のブランドビジネスを確立します。</p> <p>学術面では、恐竜博物館を、アジア最大の恐竜研究拠点として確立するため、世界各国の学術拠点と連携し、「アジア恐竜学会（仮称）」の平成26年度設立に向けて準備を進めます。また、平成26年度からの第4次発掘調査に備えた現地調査を着実に進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>野外博物館の整備は、設計を完了し、25年度着工に向けた準備を着実に進めました。</p> <p>恐竜博物館を中心に奥越一帯への誘客の受け皿づくりについては、地元市との協議、民間企業の誘致活動を引き続き実施します。</p> <p>恐竜博物館の新たな魅力づくりとして、5月から展示解説員が同行説明を行う「見どころダイノツアー」を開始したほか、翼竜をテーマとした特別展の開催に合わせ、勝山市と福井市で、子どもたちを対象とした研究体験などを行う「恐竜・地質科学フェスタ」を実施しました。</p> <p>また、25年3月23日から大型恐竜カマラサウルスの実物の全身骨格化石の公開を実現し、公開に先立ち、「カマラサウルス・プロジェクト」として、頭骨など実物化石の先行展示や組上げ作業の特別公開なども行いました。</p> <p>この結果、恐竜博物館の年間来館者数は、3年連続で50万人を超えたほか、12月から3月の各月間入館者数は、過去最高を記録しました。</p> <p>恐竜博物館の所蔵品貸出や商品開発監修による恐竜ビジネスを継続的に展開し、横浜市での大型恐竜展で約16万人に恐竜王国ふくいをアピールしたほか、恐竜ネクタイや、恐竜博物館オリジナルフィギュアなどの製作・販売を行い、恐竜ブランドビジネスを拡大しました。</p> <p>アジア恐竜協会の設立に向け、6月に中国・杭州市で5か国代表者による設立準備会を開催し、25年度に恐竜博物館が事務局となる協会設立や、本県での国際恐竜シンポジウム開催を合意しました。</p> <p>また、第4次発掘調査の準備として、ボーリング調査や測量を行い、25年夏からの本格的な発掘調査の準備を進めました。</p>	
<p>恐竜博物館の入館者数 55万人 (平成23年度 51.5万人) チャレンジ目標 60万人</p> <p>ブランドビジネスの売上規模 20百万円 (平成23年度 15百万円)</p>		<p>恐竜博物館の入館者数 54.1万人</p> <p>ブランドビジネスの売上規模 15百万円</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>・「一乗谷朝倉氏遺跡」を日本一のフィールドミュージアムに</p> <p>「一乗谷朝倉氏遺跡」が日本一のフィールドミュージアムとなるよう、遺跡全体の魅力を一層高めていきます。</p> <p>今年度は、「一乗谷朝倉氏遺跡資料館」において、未公開の「逸品」特別展示や、ゲートサインの設置を行うほか、遺跡内では、ガイド付き周遊バスの運行（4月28日から）や「物見台」の整備（7月）、音声案内システムを試行的に導入し、来訪者のサービスを拡充します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>一乗谷朝倉氏資料館では、資料館所蔵の未公開資料を展示する「逸品展」を年4回開催したほか、展示解説員を新たに配置し、来館者へのサービス向上を図りました。</p> <p>また、施設壁面に来訪者へアピールするゲートサインを設置したほか、館内エントランスロビーに一乗谷全体を紹介するジオラマ模型の展示や、館内カウンターの設置なども行い、利便性向上を図りました。</p> <p>遺跡内では、4月28日から無料周遊シャトルバスの運行や遺跡コンシェルジュの案内サービスを開始したほか、遺跡全体を見渡せる物見台を整備し、7月28日から一般開放しました。</p> <p>また、9月15日から11月4日までの間、資料館を含む56か所を案内する音声ガイドを試行的に導入しました。</p> <p>さらに、11月3日と4日に、復原町並で初めて伝統工芸品や地元の食を販売する「戦国あさくら市」を開催し、約8,000人に楽しんでいただくなど、一乗谷朝倉氏遺跡の新たな魅力を創出しました。</p>	
<p>〔一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数 50,000人 (平成23年度 37,281人)〕</p>		<p>〔一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数 44,560人〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>・「食」ブランド化の推進と販路拡大</p> <p>情報発信力のある「食」の分野の第一人者や大手企業、各種広報媒体等とのつながりを強化し、旬に応じて、全国に誇るふくいの「食」を国内外に発信します。</p> <p>素材にこだわる都市圏の一流ホテルや有名店などに旬の食材を売り込む「外商活動（アタック100）」にチャレンジし、県産食材使用店の拡大と定着を進めます。また、海外見本市での売り込みなど、海外における外商活動を促進し、県産食材の輸出拡大を進めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>飲食業者への売り込みによる新規契約成立件数（累計） 90件 （平成23年度末 75件）</p> <p>東アジアへの県産食材の輸出額 900万円 （平成23年度 807万円）</p> <p>チャレンジ目標 1,000万円</p> </div>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>航空会社との連携により、国際線ファーストクラス等の機内食で、福井梅、おぼろ昆布、越前そば、鯖へしこ、県産アキサカリなどの県産食材が提供されたほか、飲料メーカー直営店との連携により、全国の38店舗で越のルビー、吉川なすなどを使った特別メニューが提供されるなど、県産食材の知名度向上を進めました。</p> <p>また、大手の出版会社やテレビ局などに働きかけ、上庄里芋、越前がになど、旬のふくい「食」を全国に情報発信しました。</p> <p>首都圏や関西圏などの高級レストランや料亭など109件を直接訪問、外商活動を展開し、横浜グランドインターコンチネンタルホテル、浦安ブライトンホテル、渋谷エクセルホテル東急のレストランなど新たに18事業者と県産食材活用の契約を成立しました。</p> <p>また、台湾で福井フェアを開催し、コシヒカリやそば、らっきょう、地酒、菓子、調味料等を販売したほか、台湾・高雄食品見本市など海外見本市等に出席し、コシヒカリや水産加工品、調味料等を現地の食品バイヤーに直接売り込み、海外での県産食材の輸出を拡大しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>飲食業者への売り込みによる新規契約成立件数（累計） 93件 （平成24年度 18件）</p> <p>東アジアへの県産食材の輸出額 912万円</p> </div>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造																
項目		実施結果																	
<p>◇ 観光を福井のリーディング産業へ・観光地のスケールアップ (観光客200万人増)【部局連携】</p> <p>北陸新幹線金沢開業および舞鶴若狭自動車道全線開通に伴う交流人口の拡大の効果を最大限得られるよう、「にっぽんのふるさと」福井が誇る美味しい食、歴史・文化、海などの自然を活かした、新たな体験メニューの発掘やまちなか等を周遊する仕組みづくりを進め、本県の魅力アップを進めます。</p> <p>また、伝統的な町並みや自然景観などを活かして観光地の魅力を高める「観光まちづくり計画」を、市町・民間事業者等とともに策定し、平成26年度に向けて観光拠点整備を進めます。</p> <p>JR等により来県する観光客の利便性を高めるため、あわら温泉を拠点に恐竜博物館・永平寺等への直行バスの実証運行を夏までに行うほか、東尋坊・三国湊等を周遊する循環バスの有効活用を図り、誘客拡大につなげます。</p> <p>また、若狭の普段見ることができない文化財を秋に集中的に公開するとともに、それらを巡る周遊バスを運行します。</p> <table border="1" data-bbox="151 1702 654 1993"> <tr> <td>観光客入込数</td> <td>1,100万人</td> </tr> <tr> <td>(平成23年)</td> <td>980万人</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ目標</td> <td>1,150万人</td> </tr> <tr> <td>観光消費額</td> <td>870億円</td> </tr> <tr> <td>(平成23年)</td> <td>794億円</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ目標</td> <td>900億円</td> </tr> </table>		観光客入込数	1,100万人	(平成23年)	980万人	チャレンジ目標	1,150万人	観光消費額	870億円	(平成23年)	794億円	チャレンジ目標	900億円	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>北陸新幹線金沢開業および舞鶴若狭自動車道全線開通に向け、ソフト・ハード両面から観光地のスケールアップを図りました。</p> <p>ソフト面では、本県が誇る食や歴史・文化など地域資源を活用した体験メニューづくりとして、体験プログラムを集約した「てんこもり小浜フェスタ」の開催や、地域食材を活用した高浜オリジナルのメニューづくりとモニターツアーの実施、永平寺門前で体験メニュー「一文字写経」の試行などを行う9団体を支援し、新たな本県の魅力づくりを進めました。</p> <p>ハード面では、恐竜博物館や一乗谷朝倉氏遺跡の魅力づくりなどを進めたほか、市町の観光地の魅力アップとして、新たに「観光まちなみ魅力アップ事業」を創設し、あわら温泉では、まち歩きを楽しむことができるような街路や湯のまち広場の整備、敦賀市金ヶ崎では、赤レンガ倉庫を活用した「鉄道と港のまち」づくり、三方五湖周辺では花と光をテーマにした縄文ロマンパークの整備などの計画策定を支援しました。</p> <p>今後、これらの本格的な整備着手を支援するとともに、加えて、福井市浜町での幕末を感じることができる観光ポイントの整備、禅の里の雰囲気醸し出す永平寺門前の景観整備、今庄宿の景観保全、小浜西組周辺の景観づくりについても、市町の計画策定を応援します。</p> <p>二次交通対策として観光地を結ぶバスの実証運行に取り組み、あわら温泉と恐竜博物館を結ぶ直行バスを7月7日から39日間運行(1日1往復)したほか、あわら温泉と三国の周辺の巡回バスを11月から2月までの休日等13日間運行(1日8便)しました。また、若狭の秘仏等の文化財特別公開に合わせたガイド付きバスを9月15日から休日13日間(計35便)運行しました。</p> <p>今後、これらの実証運行結果に基づき、運行時期やルートを見直すほか、25年度は金沢駅からあわら温泉への直行バスの実証運行を実施し、観光客の利便性向上を図ります。</p> <table border="1" data-bbox="678 1702 1444 1993"> <tr> <td>観光客入込数</td> <td>977万人</td> </tr> <tr> <td>観光消費額</td> <td>797億円</td> </tr> </table>		観光客入込数	977万人	観光消費額	797億円
観光客入込数	1,100万人																		
(平成23年)	980万人																		
チャレンジ目標	1,150万人																		
観光消費額	870億円																		
(平成23年)	794億円																		
チャレンジ目標	900億円																		
観光客入込数	977万人																		
観光消費額	797億円																		

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>・観光情報発信と誘客プロモーションの強化</p> <p>観光事業者やJR、NEXCO等と連携し、北関東や信越、中・四国など新たなエリアにおいて、メディアや旅行会社を活用した誘客プロモーションを強化します。</p> <p>本県の観光情報ポータルサイト「ふくいドットコム」のリニューアルを急ぎ、旬の魚や野菜など「食」の情報や福井に宿泊した翌日の観光情報・個店情報など、観光客が知りたい情報を確実に提供するほか、スマートフォンや動画を活用した情報発信も行います。</p> <p>〔ふくいドットコムへのアクセス件数 100万件 (平成23年度 75万件)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>北陸新幹線金沢開業に伴い誘客拡大が期待できる大宮、高崎、長野において、11月に「越前がに」と「恐竜」をモチーフにした大型広告の掲出と駅構内でのPRイベントを行いました。併せて、地元メディア計12社と旅行会社の現地支店等計25店を訪問営業し、本県の魅力を売り込みました。</p> <p>また、JRと連携し、11月に首都圏旅行会社に直接、北陸の観光素材説明を行ったほか、27年秋にJR、石川県、富山県とともに「北陸デスティネーションキャンペーン」を実施することが決定しました。</p> <p>NEXCO西日本や京都府等と連携し、舞鶴若狭自動車道の丹後・若狭エリアを対象とする3日間乗り放題の定額キャンペーン等を実施し、誘客拡大に努めました。</p> <p>10月に「ふくいドットコム」のリニューアルを実施し、県内の飲食店情報約1,600軒を掲載するなど福井の「食」に関する情報を充実したほか、約300軒の宿泊施設の予約機能や周辺観光地情報の検索機能を強化しました。</p> <p>また、福井の楽しみ方を具体的に紹介できるよう、食や体験観光を紹介した動画18本を掲載したほか、スマートフォン専用サイトを新たに開設し、GPS機能を利用して自分のいるところから目的の観光地までの経路案内を行うなど、インターネットを活用した情報発信の強化と利用者の利便性向上を図りました。</p> <p>〔ふくいドットコムへのアクセス件数 (トップページアクセス件数) 88万件 【参考】総ページビュー数 228万件〕</p>	



役職	観光営業部長	氏名	伊藤 惠造
項目		実施結果	
<p><b>・広域新観光の推進</b></p> <p>石川県とは、加賀地域と連携し、新幹線沿線エリアに大型広告を掲出することなどにより、越前加賀エリアへの誘客を促進します。</p> <p>岐阜県とは、白山周遊キャンペーンの実施のほか、越前美濃街道沿線四市の販促イベントや両県ゆかりの杉原千畝を活かした「人道クルーズ」の運航を通じ、交流拡大を行います。</p> <p>滋賀県、京都府とは、舞鶴若狭自動車道を活用した戦国ゆかりの観光地を巡る歴史街道周遊ルートの企画や地域の食材を活用した新メニューの開発などにより、連携を深めます。</p> <p>また、外国人観光客が利用する「ミシュラングリーンガイドジャポン」への本県の観光地の掲載を目指します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>越前・加賀エリアへの誘客を拡大するため、石川県および越前加賀地域8市町と連携し、9月2日に「越前加賀アースライド」(29都道府県から549人参加)を、10月21日に「越前・加賀グルメフェスタ」(12,000人来場)を開催し、同エリアの自然景観や食をアピールしました。</p> <p>岐阜県とは、白山周遊キャンペーンとして、関西や中京の旅行会社30社へ共同営業を行い、新たに22件の旅行商品作成につなげました。</p> <p>また、両県ゆかりの「杉原千畝」を活かし、7月に「人道クルーズ」を実施(440人参加)し、関西方面を中心とした誘客拡大を図ったほか、9月から11月にかけて「越前美濃街道」沿線4市がそれぞれに実施した観光イベントで、観光プロモーション活動を行うなど、両県の魅力発信を強めました。</p> <p>滋賀県とは、伝統工芸(越前焼・信楽焼)と地元の食を組み合わせた観光PRを行ったほか、京都府とは、大阪や岡山などで共同観光プロモーションを行うなど、関西・中国地方からの観光客誘致に努めました。</p> <p>外国人観光客に一定の評価を得ている「ミシュラングリーンガイドジャポン」などに本県観光地が掲載されるよう、引き続き、きめ細かな情報提供を行います。</p>	
<p>〔 共同で企画するイベント、旅行商品の数 40件 (平成23年度 31件) 〕</p>		<p>〔 共同で企画するイベント、旅行商品の数 40件 〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>・「福井がわかる」ニューツーリズムの推進【部局連携】</p> <p>「日本の良さ」や「日本人の良さ」が残る「にっぽんのふるさと」福井を体感できるよう、「ふるさと百景」を活かした観光ツアーの商品企画に取り組むほか、伝統工芸などものづくり体験を柱とする産業観光や、ふくい「食」を体感できる農業・漁業など、福井の魅力が強力に売り込みます。</p> <p>また、学生合宿のメッカを目指し、関西・中京圏の大学への営業訪問を拡大し、昨年度誘致に成功した延べ4万人をベースとして、学生合宿を拡大します。</p> <p>本格的な漁業体験や漁家民宿の分宿体制での受入といった本県ならではのプログラムを売込み、都市圏や台湾の中学・高校の修学旅行等を誘致します。</p> <p>さらに、コンベンションの誘致については、福井県コンベンション誘致促進会議を中心に、省庁や都市圏の大学・学術機関、各種団体などへの営業訪問活動を強化し、宿泊客の増加に努めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ふるさと百景を活用したE Vモニターツアーやツアー291での主催旅行ツアーを実現したほか、さといも掘りや水ようかんづくり、朝倉の伝承料理など、福井ならではの体験や食を組み込んだ旅行商品を新たに12件造成し、「にっぽんのふるさと」福井の魅力発信に努めました。</p> <p>本県への学生合宿を拡大するため、市町と誘致体制を整えるとともに、関西・中京圏を中心に大学91件、旅行会社14件を訪問し、アクセスの優位性など合宿先としての本県の実力を売り込み、前年実績の1割以上の学生合宿を誘致しました。</p> <p>また、修学旅行は、今後新たに誘客拡大が期待できる北関東や中・四国、九州方面への営業活動を強め、旅行会社53社、教育機関12団体に本県ならではのプログラムを売り込みました。</p> <p>修学旅行については通常2年以上前に決定する傾向があるため、実現に向けて継続的な教育旅行誘致に努めます。</p> <p>台湾など海外からの教育旅行は、台湾の旅行会社約70社に営業訪問を行うとともに、石川県と共同で広域ルートによる教育旅行誘致も行うなど、台湾から3校、中国から1校、合計116人を受け入れました。</p> <p>福井県コンベンション誘致促進会議を中心に、県内外の学会事務局や各種団体、企業など約200団体へ営業を行ったほか、福井観光コンベンションビューローが都市圏での招致展示会で本県の実力を売り込み、県内で263件の会議・大会等が開催されました。</p>	
<p>県外からの教育旅行者数 64,000人 (平成23年 58,500人) チャレンジ目標 70,000人</p> <p>県内におけるコンベンション開催件数 250回 (平成23年度 235回) チャレンジ目標 260回</p>		<p>県外からの教育旅行者数 65,900人</p> <p>県内におけるコンベンション開催件数 263回</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造		
項目		実施結果			
<p>・もてなし産業化の推進</p> <p>地域の観光地づくりを推進する人材発掘や交流拡大を行うほか、「観光おもてなし認定者」を増加させます。</p> <p>また、観光ガイド経験者へのレベルアップ研修（7月）や、独自のコーチング技術に定評があるテーマパーク事業者と連携したガイド講座の開設（8月）などにより、ファミリー層もさらに楽しめる観光ガイドを増やします。</p> <p>さらに、観光客の目線に立った満足度調査や、「おもてなし評価システム」の研究を行い、その成果を観光施設等に反映させるなど、本県のもてなし力をステージアップさせます。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>観光もてなし認定者の数（新規認定） 100人</p> <p>（平成23年度末 185人 年間平均新規認定者数 93人）</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>観光おもてなし認定者の数 （新規認定） 117人</p> <p>平成24年度末累計 302人</p> </td> </tr> </table> </div>		<p>観光もてなし認定者の数（新規認定） 100人</p> <p>（平成23年度末 185人 年間平均新規認定者数 93人）</p>	<p>観光おもてなし認定者の数 （新規認定） 117人</p> <p>平成24年度末累計 302人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>おもてなしの向上として、今年度新たに117人が、本県の観光おもてなし認定に合格し、合計302人となりました。</p> <p>また、福井市や敦賀市、あわら市、越前町などで、おもてなし研修が開催されたほか、あわら温泉では、女将の会の全員が、旬の食材を利用した料理や美味しい地酒の提供を行うことができるよう、日本酒きき酒師の資格取得を目指すなど、地域を挙げたおもてなしの向上の取組みが拡大しており、引き続き、観光客の満足度を高める取組みを図ります。</p> <p>ユニバーサルスタジオジャパン（USJ）と連携し、ファミリー層や若者にも楽しんでもらうことができるガイド手法を学ぶ「観光ガイド講座」（延べ158人参加）を初めて開催したほか、小浜地区（8月）、一乗谷朝倉氏遺跡（8月）、恐竜博物館（12月）において実際の接遇場面に即した研修も開催（延べ58人参加）し、ガイド技術の向上を図りました。</p> <p>観光客満足度調査を実施（2,988人回答）したことから、今後、集計結果を分析し、市町や観光事業者等と共有しながら、全県的なサービス改善に活用します。</p>	
<p>観光もてなし認定者の数（新規認定） 100人</p> <p>（平成23年度末 185人 年間平均新規認定者数 93人）</p>	<p>観光おもてなし認定者の数 （新規認定） 117人</p> <p>平成24年度末累計 302人</p>				

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p><b>2 豊かな環境、もっと豊かに</b>  <b>◇ 景観を県民資産に</b>  <b>・景観資源の保全と活用【部局連携】</b></p> <p>ふるさと福井の美しい景観を守り育てていくため、「福井ふるさと百景活動団体」や「伝統的民家群保存活用推進地区」を倍増させ、地域住民が行う百景ビューポイントの整備や植栽活動などへの支援を通じ、地域活動の輪を広げます。</p> <p>福井が誇る文化や景観を県内外に発信するため、県内市町や文化施設のほか、県外観光イベントなどの場を活用した「福井ふるさと百景展」を年間通じて展開します。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>景観づくり活動に取り組む団体数  累計 12 団体  (平成23年度 6 団体)</p> <p>伝統的民家の集積を活かした街並みや集落景観の保存活用に取り組む地区数  累計 12 地区  (平成23年度 6 地区)</p> </div>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井ふるさと百景選定地で、夜間景観づくりや眺望確保、街並みの緑化などの景観づくりなどの活動に取り組む「福井ふるさと百景活動団体」を今年度新たに7団体を認定し、その活動を支援しました。</p> <p>また、福井らしい集落・街並み景観の保全に向けた活動などに取り組む「伝統的民家群保存活用推進地区」を今年度新たに6地区を指定し、その活動を支援しました。</p> <p>福井ふるさと百景展として、県内全ての市町で巡回展示や、歴史博物館や恐竜博物館などで常設展示を行ったほか、県外での観光宣伝イベント等での展示を行うなど、福井が誇る文化や景観の全国発信を強めました。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>景観づくり活動に取り組む団体数  累計 13 団体  (平成24年度 7 団体増)</p> <p>伝統的民家の集積を活かした街並みや集落景観の保存活用に取り組む地区数  累計 12 地区  (平成24年度 6 地区増)</p> </div>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>3 生活のなかに楽しむ県民文化 ◇ 生活に福井の文化 ・子どもたちが一流の芸術・文化に触れる機会をさらに拡充</p> <p>子どもたちが学校、地域において、身近に芸術・文化活動に親しむことができるよう、県立美術館の所蔵作品を活用した学校等での鑑賞授業や、地域の文化会館等での子ども向けコンサートの開催、地元の文化活動者による児童館等での体験講座などを拡充します。</p> <p>小学校5年生全員に、県立音楽堂での本格的なオーケストラコンサートなど本物の芸術文化に触れる機会を提供するとともに、中高生などが一流のアーティストから指導を受ける場を拡充します。また、プロの指導者による弦楽器奏者の育成を強化します。</p> <p>〔一流の芸術・文化を体験する子どもの数 70,000人 (平成23年度 68,531人)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>子どもたちの芸術・文化体験を推進するため、県立美術館の所蔵作品を学校の授業で直接鑑賞する「ふれあいミュージアム」(1,578人参加)や、県立音楽堂や地域の文化会館等で児童・園児達に音楽に関心を持ってもらうきっかけづくりとする「ふるさと子どもコンサート」(5,184人参加)、地域の多様な文化活動者を地域に派遣する「ふくい子ども文化塾」(2,330人参加)などを開催し、子どもたちに芸術文化に親しんでもらう場を提供しました。</p> <p>また、県内の小学5年生全員を対象に県立音楽堂でのプロオーケストラの鑑賞と、県立美術館や歴史博物館などの見学・体験を組み合わせた「ふれあい文化子どもスクール」(7,758人参加)を開催したほか、中高生が一流の芸術家から指導を受ける「ヤングアートキャンプ」(1,311人参加)などを実施し、一流の芸術・文化に触れる機会を拡大しました。</p> <p>〔一流の芸術・文化を体験する子どもの数 71,637人〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>・歴史博物館、美術館、若狭歴史民俗資料館の活性化</p> <p>「歴史博物館」では、泰澄ゆかりの仏像等を展示する特別展を秋に開催し、「白山文化」に関する調査研究成果を県内外に発信します。開催に合わせ、関連する資料の寄託を進めるとともに、泰澄ゆかりの地を学芸員が案内する見学ツアーを開催します。</p> <p>「美術館」では、春にストラスブール美術館展、夏休みに親子向けの体験型の展覧会を開催し、県外からの誘客を強化するなど、新たな利用者層の開拓に努めます。また、平成25年秋の岡倉天心ゆかりの美術品を一堂に集める特別展開催に向け、資料調査などの準備を進めます。</p> <p>「若狭歴史民俗資料館」では、普段見ることができない嶺南地域の文化財公開を進めるほか、嶺南の文化観光のゲートウェイ機能を持つ中核施設とするリニューアルの検討を進めます。</p> <p>このほか、学校との連携を一層強化し、学校への出前授業、夏休みに親子で鑑賞するキッズミュージアムを拡大して実施します。</p> <p>歴史博物館の入館者数 85,000人 (平成23年度 77,762人)</p> <p>美術館の入館者数 202,000人 (平成23年度 184,060人)</p> <p>若狭歴史民俗資料館の入館者数 23,000人 (平成23年度 21,037人)</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>歴史博物館では、11月に「泰澄大師ゆかりの神仏」をテーマに、泰澄ゆかりの多数の仏像の展示や、越前の宗教文化を紹介する企画展を開催したほか、泰澄ゆかりの地を学芸員が案内する見学ツアーを初めて開催(2回実施、53人参加)するなど、本県の歴史文化を掘り下げて紹介し、泰澄ゆかりの白山文化を県内外に情報発信しました。</p> <p>美術館では、春の「ストラスブール美術館展」や夏休み期間中の親子向け展覧会「魔法の美術館展」が好調で、年間入館者数は、昭和52年開館以来、過去最高となりました。</p> <p>また、3月にはふるさと知事ネットワークのつながりを活かし、本県・三重県・奈良県の三県美術館が所蔵する版画の名品を本県美術館に一堂に集めた展覧会を実現させ、美術館の活性化を図りました。</p> <p>このほか、25年度にイタリア国外ではほとんど見ることができない「ミケランジェロ」の特別展を本県で開催できるよう関係者と準備を進めたほか、本県ゆかりの岡倉天心に関する資料調査を行い、「岡倉天心展」の開催準備も進めるなど、新たな利用者層が拡大するよう取り組みました。</p> <p>若狭歴史民俗資料館では、同館が中心となり、若狭地域の寺社に仏像などの公開を働きかけ、9月から10月にかけて、文化財特別公開企画「みほとけの里若狭の秘仏」を実施し、県内外からの誘客拡大につなげました。</p> <p>また、資料館の展示内容を一新し、歴史文化のまち若狭を学び、楽しむことができる拠点施設となるような機能強化を検討したことから、今後、26年度の舞鶴若狭自動車道全線開通に併せ、全面的なリニューアルを行うことができるよう準備を進めます。</p> <p>学校との連携強化として、縄文土器やアートカードを活用した出前授業を実施したほか、夏休み期間中、美術館と歴史博物館において、親子でアート作品の鑑賞や創作体験を行う「ふくいキッズミュージアム」を実施(約580人参加)するなど、子どもたちへの芸術・文化体験の機会を拡大しました。</p> <p>歴史博物館の入館者数 83,968人</p> <p>美術館の入館者数 230,313人</p> <p>若狭歴史民俗資料館の入館者数 31,255人</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>4 「希望ふくい」のふるさとづくり ◇ 「にっぽんのふるさと」福井の発信・人材ネットワークの拡大【部局連携】</p> <p>本県ゆかりの人やイベント等で来県した著名人、各界の第一人者とのつながりを深め、著名人等を介して、福井の良さや魅力を国内外に発信します。また、ネットワークを活用して新しい政策を立案します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>各部局と連携して、来県する著名人等の情報を延べ296件 収集・整理するとともに、全庁体制で著名人等に福井県の情報提供や施策等に対する協力依頼を行い、英語教材への著名人の参画やセミナー誘致などを実現しました。</p> <p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋山 仁（東京理科大学理数教育研究センター長） 11/7 数学教諭との意見交換会の実施</li> <li>・大和田伸也（映画監督、俳優）、松方弘樹（俳優） 2/7 ふるさとの日オープニングイベントへの出演</li> <li>・パトリック・ハーラン（芸能人） 県が作成する英語教材への出演 など</li> </ul>	
<p>◇ 選ばれるふるさと ・「ふるさと帰住」政策のスケールアップ【共同研究】</p> <p>市町と共動して、空き家を活用した定住・交流の拠点施設を整備し、県外在住者に宿泊体験等の機会を提供することにより、県外から福井県への定住を促進します。</p> <p>また、定住者の生活全般にわたる支援を行う地域活動団体等との共動による取組みを全県下に拡大し、定住希望者の相談体制の充実を図ります。</p> <p>さらに、県外大学の学生ゼミ等と連携して、地域におけるふるさと帰住の取組みに学生等の若い力を積極的に活用することにより、受け入れ地域の活性化を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>空き家を活用した定住・交流の拠点施設の整備については、25年度に実現できるよう、引き続き市町と協議を進めます。</p> <p>NPO法人と連携して、定住相談や空き家ツアーなどを実施し、定住者が安心して生活できる環境づくりを行いました。引き続き、東京、大阪、名古屋に設置している「ふるさと帰住センター」やNPO法人と連携し、定住情報の発信や相談会の共同開催など、定住相談体制の充実に取り組みます。</p> <p>定住を通し、地域の再生を図ろうとする福井市殿下地区と関西大学等の学生ゼミとの連携を支援し、被災児童サマーキャンプへの県外学生ボランティアの参加など、地域の活性化に学生等の若い力を活用しました。</p> <p>引き続き、地域の取り組みを応援する大学等と連携し、ふるさと帰住政策をスケールアップさせていきます。</p>	
<p>〔「新ふくい人」の数 320人 (平成23年度 302人) チャレンジ目標 330人〕</p>		<p>〔「新ふくい人」の数 321人〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>・「ふるさと貢献」の推進</p> <p>ふるさと納税については、全国から福井県へのリピーター確保に重点をおいて営業活動を行うことにより、全国トップクラスの実績を目指します。</p> <p>さらに県のイベント等にあわせて、幅広くふるさと納税をPRすることにより寄付文化の普及浸透を図っていきます。</p> <p>また、ふるさと納税制度が、寄付者にとってより利用しやすい制度となるよう、年末調整で控除できる仕組みの実現などを他県と連携して国に強く働きかけ、「福井発ふるさと納税」の一層の普及、定着を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>ふるさと納税は、市町一体となったPRや、県人会や同窓会を通じ、約10,800人（81団体）に対し、直接、制度周知と協力依頼を行うとともに、県内の商工会議所や商工会に機関広報誌への掲載、研修等での資料配付等を依頼し、県内企業や県外在住の従業員に対してPRを行いました。</p> <p>ふるさと納税が、ふるさとを元気にする制度であることを普及・浸透させるため、寄せられた寄附金をふるさとを担う子どもたちの成長を応援する事業に充てていることを、「ふるさとの日」での目録等の贈呈など、様々な機会を通じてアピールしました。</p> <p>また、ふるさと納税制度が、寄付者にとってより利用しやすい制度となるよう、年末調整で控除できる仕組みの実現を国へ継続要望しました。引き続き、国に強く働きかけるとともに、年末調整事務が増大する企業等への意見聴取も行い、仕組みの実現に向けた検討を進めます。</p>	
<p>〔ふるさと納税寄付金の寄付額〕</p> <p style="text-align: right;">75,000千円</p> <p style="text-align: right;">（平成23年度 63,858千円）</p> <p style="text-align: right;">チャレンジ目標 80,000千円</p>		<p>〔ふるさと納税寄付金の寄付額〕</p> <p style="text-align: right;">56,419千円</p>	
<p>・県民のグローバルマインドとスキルのレベルアップ</p> <p>多くの県民がグローバル社会の中で活躍できるよう、各国大使館等の協力を得ながら県民向けのグローバルセミナーを開催するほか、海外からの研修生や留学生の受け入れを様々な組織で積極的に行い、外国人とふれあう機会を増やします。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>1月にペルー大使を招き、福井県立大学と福井大学において「ペルーと日本を結ぶ経済交流」をテーマにグローバルセミナーを開催（延べ220人参加）し、来場者のグローバルマインドを高めました。</p> <p>また、9月から3月にかけて、ブラジル、アルゼンチン、中国からの技術研修員5名を、県民と触れ合う機会が多い報道や医療などの県内団体に受け入れていただいたほか、国際交流フェスティバルを嶺北と嶺南で開催し、県民と県内在住外国人との交流を拡大しました。</p> <p>今後、技術研修員の受入人数を増やすとともに、本県での世界少年野球大会の開催など、県民の国際交流の機会を拡大していきます。</p>	
<p>〔グローバルセミナーの開催数〕</p> <p style="text-align: right;">2回</p> <p style="text-align: right;">（平成23年度 2回）</p>		<p>〔グローバルセミナーの開催〕</p> <p style="text-align: right;">2回</p>	



